

[Press Release 2019.8.28/29] Part 2

京都市京セラ美術館
プレオープニングイベント・ラインナップのご案内

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

■プレオープニングイベント・ラインナップ

プレオープニングイベント セレブレイティング・カラース! **CELEBRATING COLORS!**

2019年12月～2020年3月

1 鬼頭健吾スペシャル・インスタレーション p. 3

ゴースト・フラワーズ
「ghost flowers」

2019年12月21日(土)から2020年5月末まで(予定)

アンタイトルド(フラフープ)
「untitled (hula-hoop)」

2020年3月21日(土)から2020年5月末まで(予定)

2 京セラスクエア・ウィンターコンサート p. 4

2019年12月21日(土)

3 高橋匡太による本館ライトアップ p. 4

2019年12月21日(土)から

■開館時の同時開催プログラム

STEAM THINKING —未来を創るアート 京都からの挑戦 p. 5

国際アートコンペティション スタートアップ展

日本博 特別展「京都の国宝展—守り伝える日本のたから—」(仮称) p. 5

セレブレイトイング・カラーズ

プレオープニングイベント **CELEBRATING COLORS!**

京都市京セラ美術館では、2020年3月21日のリニューアルオープンにむけて、国内外で活躍する京都ゆかりのアーティストによるプレオープニングイベント「CELEBRATING COLORS!」を行います。「CELEBRATING COLORS! (色を祝おう!)」は、様々なアートに触れて感覚を開いていこう、様々な色彩を放つ美術館を楽しもう、という意味が込められ、皆様に美術館のリニューアルオープンに参加いただくためのイベントとして開催します。「どんな美術館になるんだろう?」「3月21日のオープンまで待ち切れない!」という思いを抱く来館者ひとりひとりが、「じぶんの色」を見つけながら、新しい美術館の息吹を感じていただけることを願っています。

特別協賛：京セラ株式会社

1 鬼頭健吾スペシャル・インスタレーション

ゴースト・フラワーズ

「ghost flowers」

会期：2019年12月21日(土)～2020年5月末(予定)

会場：北西エントランス1階(ザ・トライアングル上部)



鬼頭健吾 《ghost flowers》「アートプロジェクト高崎」2018年
撮影：木暮伸也

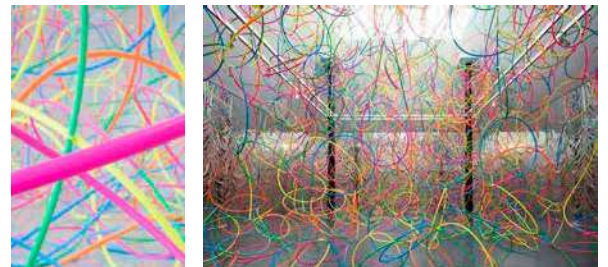
北西エントランス1階のガラス部分を舞台に、現代アートシーンの第一線で活躍するアーティスト鬼頭健吾の《ghost flowers》を展示します。建築の印象的なガラスファサードを活かし建物内部に配置された無数のミラーは、映像と周囲の風景をランダムに反射し、鑑賞者はスリリングな光や色の断片に魅了されることでしょう。さらに、リニューアルオープン以降は、地下1階ザ・トライアングルでも、鬼頭の新作展示がスタート予定。中央ホールの《untitled (hula-hoop)》とあわせ館内3か所で展開される鬼頭健吾の色彩あふれる世界でリニューアルオープンを祝います!

アンタイトルド (フラフープ)

「untitled (hula-hoop)」

会期：2020年3月21日(土)～2020年5月末(予定)

会場：本館 中央ホール



鬼頭健吾 《untitled (hula-hoop)》
「Multiple Star I」ハラミュージアムアーク 2017年
撮影：木暮伸也

リニューアルオープンを機に、かつて「大陳列室」と呼ばれ長年親しまれた展示室は、誰でも自由に入出入りできるパブリックスペースの「中央ホール」として新たに生まれ変わります。新スペースの誕生を祝って、鬼頭健吾のカラフルな大型作品《untitled (hula-hoop)》が来館者を迎えます。高さ約16メートルの天井から吊り下げられる本作品は、大量のプラスチック製フラフープが立体的に構成されている鬼頭の代表作。光あふれるダイナミックな空間に、幾重にも絡み合うフラフープが生み出す豊かな色彩の氾濫は、これまでにない新しい風景となることでしょう。

鬼頭健吾 プロフィール

1977年名古屋市生まれ、群馬県在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授。2010年に文化庁新進芸術家海外研修員としてベルリンに滞在。主な個展に「interstellar」(京都造形芸術大学ギャラリーオーブ、2016年)、「鬼頭健吾 Multiple Star」(ハラミュージアムアーク、2017年)など。

2 京セラスクエア・ウィンターコンサート

日時:2019年12月21日(土)

会場:京セラスクエア

出演者:2019年10月に発表予定

本館のエントランス前に新設されたスロープ状の広場「京セラスクエア」を舞台に、美術館本館のファサードと平安神宮の大鳥居という岡崎エリアならではの景観を生かしたオープンコンサートを開催します。普段は来館者の玄関として人が行き交う場でありながら、閉館後はコンサートをはじめ様々なイベントも開催できるというマルチな機能を持つ「京セラスクエア」の魅力を、来館者のみなさまにいち早く体感していただきます。

3 高橋匡太による本館ライトアップ

会期:2019年12月21日(土)～

会場:本館

東山を背景にした壮麗な帝冠様式、現存する国内最古の公立美術館建築。今回のリニューアルでは、1933年創建当初の建築様式・外観は保存しつつ、ガラス・リボンなど新たな位相を組み込んだ画期的なりノベーションを図り、夜には美術館本館を美しいライトアップで彩ります。ライティングを手掛けるのは、京都を拠点に、歴史的建築や景観と連動した環境演出で知られる光のアーティスト高橋匡太。美しい四季折々の景観とともに愛されてきた美術館に、新たに夜景の魅力が加わります。



ライトアップイメージ 歴史的な本館を美しくライトアップ



イベント時には多彩な演出も

高橋匡太 プロフィール

1970年生まれ。京都府出身。1995年京都市立芸術大学大学院修了。映像と光を巧みに操りライティングプロジェクト、パブリックワークなど幅広く活躍。京都・二条城、十和田市現代美術館、東京駅など大規模な建築物のライティングプロジェクトでは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を作り出している。

STEAM THINKING —未来を創るアート 京都からの挑戦 国際アートコンペティション スタートアップ展

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学) を表すSTEAMを冠した「KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020」。この国際的な文化・芸術の祭典は、アート×サイエンス・テクノロジーをテーマに、多彩なプログラムを展開していきます。同フェスティバルのコアプログラムとして開催される本展では、アーティストと企業等がコラボレーションし、それぞれが持つ発想力や知見や技術を相互に結びつけることによって制作される作品を展示します。

展覧会では、2018年度からコラボレーションを続けているメディア・アーティストの鈴木太郎と京都の西陣織製造企業である有限会社フクオカ機業の新作のほかに、本展のために選抜された新進気鋭のアーティストと企業等のコラボレーション作品を展示します。

アーティストと企業等の持つ力は、どのように融合し、何を生み出すのでしょうか。アート×サイエンス・テクノロジーの可能性にご期待ください。

会期：2020年3月21日(土)～29日(日)

会場：本館 南回廊2階

主催・問合せ先：KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会
(TEL: 075-752-2212 E-mail: info@kyoto-steam.org)



鈴木太郎×有限会社フクオカ機業
《水を織る—西陣織の新たな表現》2019年
ロームシアター京都 プロムナード（北側）での展示風景



鈴木太郎《光であそぶ / Playing with Shine》2009年
横浜市民ギャラリーあざみ野（制作：アトリエオモヤ）

KYOTO STEAM
— 世界文化交流祭 —

日本博 特別展「京都の国宝展—守り伝える日本のたから—」(仮称)

日本博主催・共催型企画として開催される本展は、古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、歴史資料等の幅広い分野の京都ゆかりの国宝で通覧するものです。また、文化財の保存活用に必要な文化財修理、修理材料の確保や修理技術の継承、模写・模造製作を通じた技術の復元等の取り組みを多言語で紹介します。

会期：2020年4月28日(火)～6月21日(日)

会場：本館 北回廊2階

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市
問合せ先：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

WEB：http://www.bunka.go.jp/seisaku/nihonhaku/index.html



国宝 絹本着色十二天像のうち水天 部分
(京都国立博物館所蔵)



国宝 太刀(銘久国)
(文化庁所蔵)



2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

プレスリリースに掲載している
広報用画像のお貸し出し、ご質問については下記まで
お問い合わせください。

京都市京セラ美術館 広報

TEL: 075-275-4271

E-mail: pr@kyoto-museum.jp